2010.4. 16

日本セキュリティ・マネジメント学会
会長　佐々木　良一　殿

2009 年度学会賞論文評価結果

2009 年度学会賞審査委員会

論文名：多重リスクコミュニケータの企業向け個人情報漏洩問題への適用
論文著者：東京電機大学　谷山光洋、
セコムトラストシステムズ(株)　日高　遥、
(株)日立製作所　荒井正人、
(株)日立製作所　甲斐　賢、
(株)日立製作所　伊川宏美、
東京電機大学・JST 社会技術研究開発センター　矢島敬士、
東京電機大学・JST 社会技術研究開発センター　佐々木良一

今回 7 名の学会賞選考委員によって、4 月 1 日から 4 月 16 日の 1 次審査期間を経て JSSM 学会誌 Vo.23,No.1,2,3 に掲載された 9 件の対象論文を以下の 5 点を基準に評価結果を大内研究部会長のもとに集め、集計していただきました：
①現状を的確に把握し、本論文の位置付け、目的、必要性が明示されているか（5 点）、②論文の仮説が明確かつ適切であるか、目的に沿った仮説になっているか（5 点）、③仮説の検証が十分になさせているか、検証不十分な所は無いか（5 点）、④論文の構成が、論理的か、適切に展開されているか（5 点）、⑤その他、論文の新規性への評価、評価できる事項、懸念される事項の有無。

さらに、4 月 16 日(金) 17：30～19：45 のその結果、NEC 本社２階 237 会議室にて 7 名の審査委員のうち 5 名が出席し、2 次審査を実施しました。この審査会では、検討対象となった 9 件の論文の中から 3 件の論文を、①総合獲得点数、②総合獲得点数において最高得点を獲得した審査委員数、③個別評価項目 5 項目の中で獲得した最低点の数が少ない、という基準で選考し、その論文についてフリーディスカッションを行いました。その結果、表記の論文を 2009 年度学会賞受賞論文として推薦することに決定しました。

推薦理由：

本論文は、審査対象となった Vo.23,No.1,2,3 に掲載された 9 件の論文の中で、①総合獲得点数、②総合獲得数において最高得点を獲得した審査委員数、③個別評価項目 5 項目の中で獲得した最低点の数が少なかったという点で本学会賞論文としての必要条件を最も満たしたものでした。

現在、情報社会の進展とともに社会的リスクが多様化しており、その現状はもはや個

別のセキュリティ技術をもって効果を得ることは不可能で、コントロールレベルでの解決法の限界が露呈しています。本研究は、このような問題に対して情報社会におけるリスクコミュニケーションを支援する多重リスクコミュニケータ（MRC：Multiple Risk Communidator）を提案し、その支援ツールとして開発された「MRC プログラム」の有効性ならびに導入可能性について論じられたものです・具体的には MRC を用いてプライバシーに対するリスクや利便性といった利害関係が対立する社会的リスク問題の一つのどのように解決するかについて説明したものであり、セキュリティに関してコントロールするのではなく、マネジメントするという本学会本来の使命に沿った研究内容と言えます。

参考文献にも紹介されていますように、著者はこれまでに 2005 年以来この MRC を内部統制問題、暗号危殆化問題に適応する研究結果を公表されておられ、本論文ではプライバシーに対するリスクや利便性について個人情報漏洩問題を中心に MRC 適用事例を通して MRC のツールとしての有効性を詳細に検証しています。

以上、本論文は日本セキュリティ・マネジメント学会の理念に最もふさわしい内容であるとともに、論文としての完成度が高く、社会的にもインパクトを与える内容と評価したします。

よって学会賞審査委員一同、本論文を 2009 年度学会賞論文として推薦いたします。

2009 年度学会賞　審査委員会

委員長　　能勢　豊一
委　員　　大曽根　匡
委　員　　堀江　正之
委　員　　松浦　幹太
委　員　　力　利則
委　員　　川口　元
委　員　　大内　功